

(科目名) 京野菜の栽培を習う			(群)	拡大科目群
			(系)	地域交流・貢献科目
(所属部局)	(職名)	(氏名)	(開講期)	前期
農学研究科	教授	間藤 徹	(授業形態)	晴れの日圃場での実習、雨の日座学
地球環境学堂	准教授	吉野 章	(対象回生)	全回生
農学研究科	准教授	小林 優	(対象学生)	全学生
農学研究科	助教	落合 久美子		
(授業の概要・目的)				
<p>京野菜は京都を特徴づける特産品のひとつです。生産者（お百姓さん）は京都の気候と土壌、作物の特徴、品質を熟知し、料亭、レストランや仕出し屋さんなど調理人を満足させる品質の野菜を一年中、供給しています。この講義では京都市南区吉祥院の生産者、石割照久氏の指導のもとで、実際の土作り、品種の選定、育苗から栽培、収穫まで一貫して実践することで、野菜栽培技術を修得するだけでなく、京都の伝統を支える「民の力」を体験し、地域社会の担い手のあるべき姿を学ぶことを目的とします。座学は石割、間藤（土壌肥料学）と吉野（農業経済学）が分担します。</p>				
(授業計画と内容)				
<p>授業は火曜日の3限を予定しています。13時に圃場に集合し90分間農作業を中心に進め、4月から7月まで季節に応じた野菜を栽培します。雨の日は観察と講義を行います。圃場は常時開放しますので、講義以外の時間にも観察や作業を行うことができます。夏作物（ナス、キュウリ、ササゲ、トマト、カボチャ、スイカなど）から受講者が栽培したい作物を決めて、作付けから収穫まで行います。化学肥料、農薬を適切に使用する慣行栽培と化学物質を一切用いない有機栽培の両方を実践します。受講生は抽選によって10名程度に制限します。</p>				
(成績評価の方法・基準)				
出席点と野菜の出来映えで評価します				
(履修要件)				
特にありません				
(教科書)				
適宜プリントを配布します				
(参考書)				